

工業製品のふるさとはどこ？

宇都宮市立横川中央小学校 高野英司

1. はじめに

私たちの身の回りにはたくさんの工業製品があふれている。工場で生産されたもの以外を見つけることが難しいほどである。このように、工業と私たちの生活とは関連が深いのであるが、その生産活動やそれが行われている場所について、子どもたちはあまり関心をもてていないのが実態であろう。

そこで、子どもたちの身近な工業製品と地図帳を活用することにより、工業製品が工場での生産活動を経て、自分たちのもとに届いているという当たり前の事実を実感できるようにしていくことが、工業の学習の導入時期において大切であると考え

2. ぼくの好きなお菓子は、どこで作っているのかな？

子どもたちが身近に接する工業製品は、お菓子やジュースなどの食料品である。そこで、食料品の箱やパッケージを集めてそれがどこで生産されているのかを確認し、その場所を地図帳で調べていくという学習を行いたい。



どの製品にもパッケージの裏側などに販売者や製造者の名称、住所が記載されているので、それを見て、製造場所の位置を調べ、地図帳でその場所を確認し、白地図に記入させていくのである。その際には、東京や大阪などの区や市が地図帳では明確に出ていない場合もあるので、教師側で補助的に資料を用意したり、都道府県単位で記録させるなど配慮していきたい。

また、製造場所の市町村の位置がわからない場合には、地図帳の後ろにある「おもな地名のさくいん」を利用させるように

するとよい。

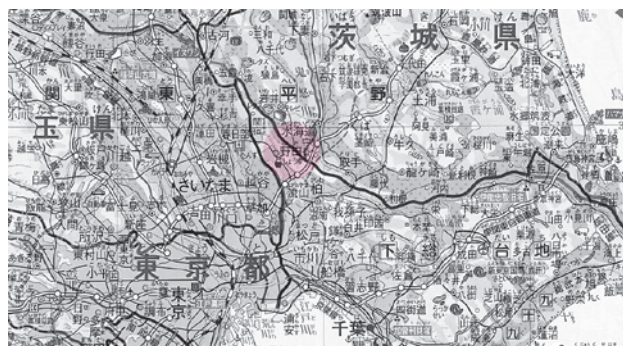
実際に活動を行っていくと、製造販売元の場所に東京の地名が多くあることがわかってくる。これは、実際に製品を生産している工場の場所を示しているのではなく、本社の住所を記載しているためである。そこで、そうした場合には、パッケージにお客様相談室などの連絡先が記載されているので、そこに電話をして、工場がどこにあるのか、その場所に工場をつくったわけなどを調べさせていく学習もぜひ行うようにしたい。

こうした活動を行っていくと、食料品は、その原料がとれる場所に近いところに多くあることがわかってくる。

3. テレビや自動車はどこでつくっているのかな？

次に、食料品にかぎらず、身の回りにある工業製品に目を向けさせていきたい。鉛筆、マジック、定規などの文房具類や薬、電気製品、機械製品などである。

電気製品や自動車などの機械製品については、実物やパッケージを用意するのがむずかしいので、パンフレットを活用したり、自動車では、ディーラーなどに聞き取りをする活動を行ったりすることも有効である。



帝国書院『小学生の地図帳（最新版）』p.34

4. どんなところでどんな工業がさかんなのかな？

このような活動の後で、わかったことを話し合う活動を行いたい。工業製品の種類によって工場の分布している地域が異なっていること、3大工業地帯のように海岸沿いに工業のさかんな地域があることなどを実感的にとらえることができてくる。